

(2) 東北



東北地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

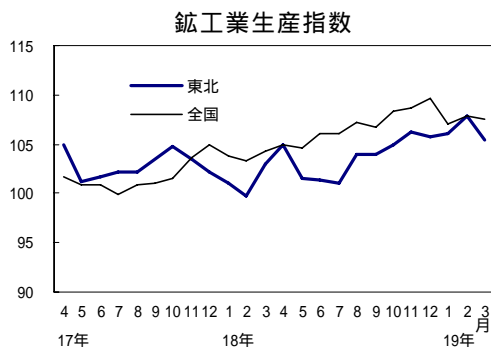
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 19 年 2 月）	今回（平成 19 年 5 月）	
住宅建設	増加	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

電子部品・デバイスは、携帯電話向けの固定コンデンサや国内のデジタル家電向けのモス型半導体集積回路などが好調に推移したことから増加している。食料品・たばこは、冷凍用水産食品は好調に推移したものの、清涼飲料や生菓子が低調に推移したことから、おおむね横ばいで推移している。情報通信機械は、無線通信装置やパソコンは低調に推移したものの、デジタルカメラや外部記憶装置などが好調に推移したことから、おおむね横ばいで推移している。一般機械は、産業用ロボットや半導体製造装置は低調に推移したものの、国内向けの金型が好調に推移したことから、おおむね横ばいで推移している。電気機械は、開閉制御装置や乾電池などが低調に推移したことから減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷		在庫	
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期		
電子部品・デバイス	19.3	4.8	4.4	0.7	56.7		
食料品・たばこ	12.9	3.3	0.2	0.6	17.7		
情報通信機械	11.6	2.4	0.8	0.8	13.6		
一般機械	8.6	0.7	0.8	3.2	27.2		
電気機械	5.8	1.6	2.3	2.8	3.2		
鉱工業	100.0	2.5	0.9	0.2	3.5		

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

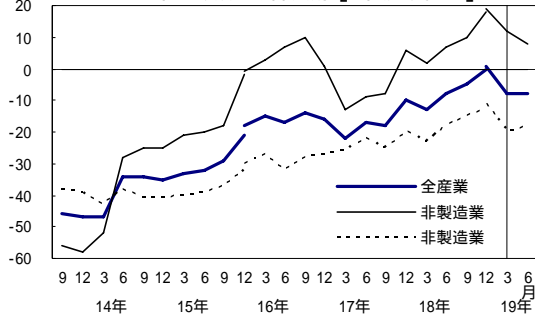
2. 1~3月期は速報値。

(備考) 1. 12年=100、季節調整値。

2. 平成19年3月の東北は速報値。

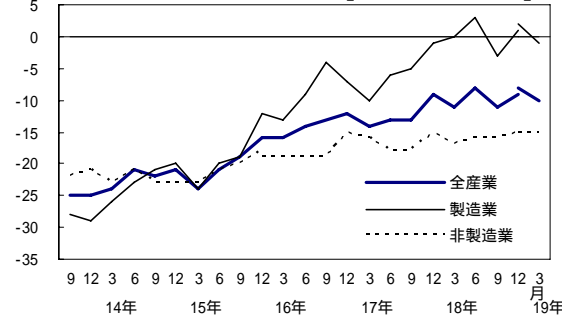
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超に転じ、資金繰り判断は「苦しい」超幅が拡大している。
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



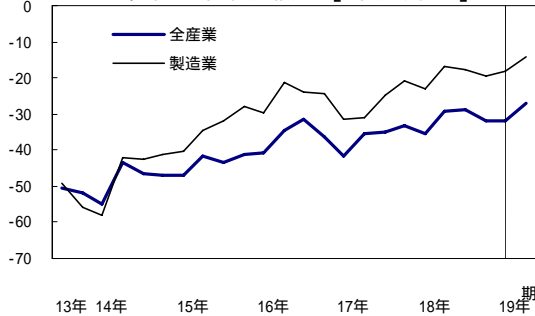
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。19年6月は予測。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
15年12月および18年12月は新・旧基準を併記

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。19年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「相変わらず単価の下落に歯止めが掛からない状況である。官公庁の入札における受注価格の低下はとどまることを知らず、薄利を余儀なくされている(広告代理店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

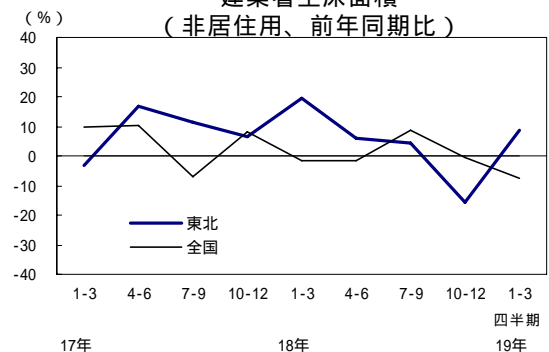
(3) 18年度の設備投資は前年度を大幅に上回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	18年度実績見込み	19年度見込み
全産業	27.3(1.1)	0.9
製造業	44.7(0.6)	13.1
非製造業	10.7(1.9)	18.4

(備考)()は前回(12月)調査比修正率。

建築着工床面積
(非居住用、前年同期比)



(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費はおおむね横ばいとなっている。

大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

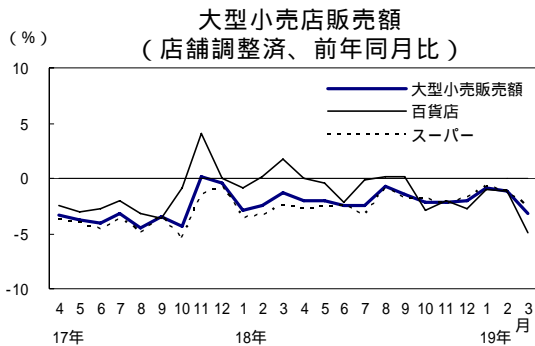
百貨店は、1月は、初売りが好調で、ハンドバッグ等の身の回り品も増加したが、暖冬の影響から冬物衣料が伸び悩み、飲食料品も生鮮食品が振るわなかったことから前年を下回った。

2月は、婦人用の薄物コート等の春物衣料やバレンタインデー関連の菓子に動きがみられたが、身の回り品や飲食料品が伸びなかったことから前年を下回った。3月は春物衣料も振るわず、身の回り品や飲食料品も低調であったことから前年を下回った。なお、東北百貨店協会によると、東北地区の4月の売上高は前年同月比で4.3%減となっている。

スーパーは、酒やバレンタインデー関連菓子などに動きがみられたものの、精肉、鮮魚、野菜などが低調に推移し、衣料品も1、2月は春物が伸びたものの全般的に振るわなかったため、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

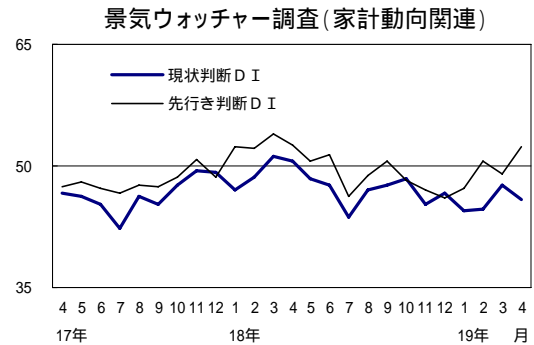
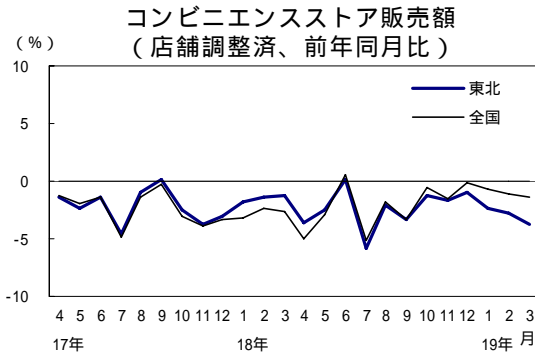
「客の購買状況は、売手からの仕掛け次第で催事でも関心があれば売れるし、無ければ反応しない。必要な物の出費は抑え、欲しい物は予算の許す範囲で高い物を購入する、というような状況は変わらない。前年との比較では3か月前の状況と変わらない(百貨店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	18年4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月
大型小売店	2.1	1.5	2.1	1.7
百貨店	0.8	0.0	2.6	2.4
スーパー	2.6	2.0	2.0	1.4
コンビニ	2.0	3.7	1.3	2.9
景気ウォッチャー	48.9	46.1	46.7	45.5

(備考) 1. 大型小売店及びコンビニは店舗調整済。

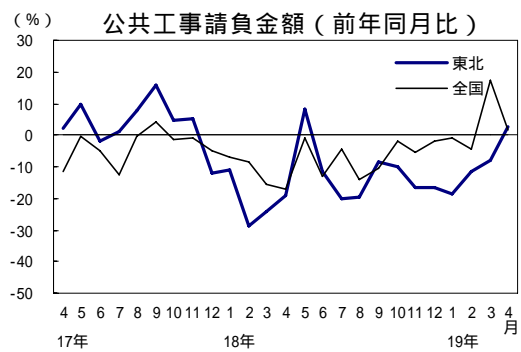
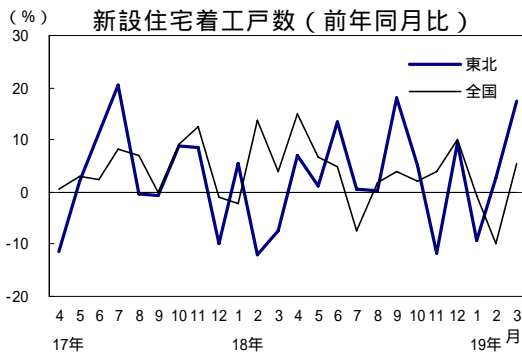
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家が前年を下回ったものの、分譲などが増加したことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は18年度累計で見ると前年度を下回っている。

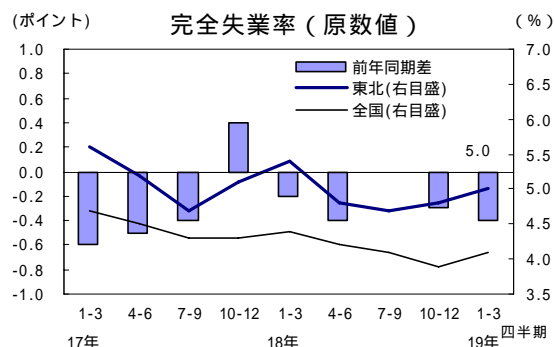
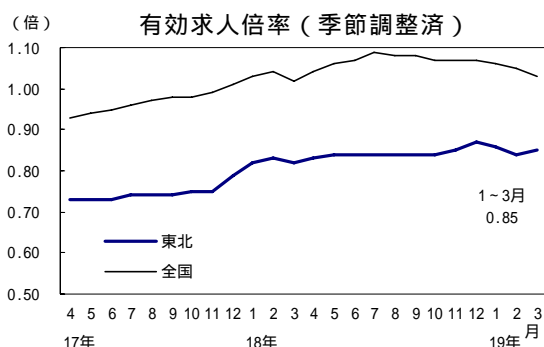


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、緩やかな改善傾向にある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（4月）[雇用関連（現状）]

「京阪などの大型流通業だけでなく、地元中小企業からの求人募集が少しずつではあるが増えてきた(新聞社[求人広告])」など「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

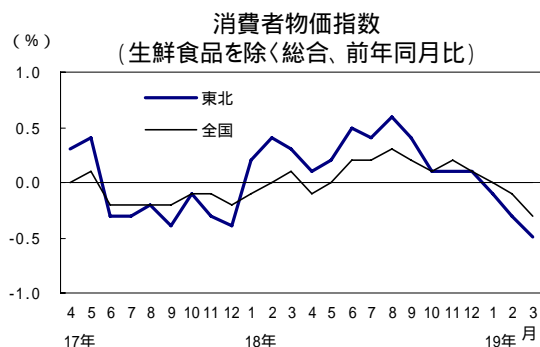
(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに増加している。

4月に負債総額が大幅に増加している。

(3) 消費者物価指数は下落に転じている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	18年 4-6月	7-9月	10-12月	19年1-3月	19年4月
倒産件数	234	255	224	233	75
(前年比)	5.3	2.8	2.8	3.6	2.7
負債総額	720	810	681	853	1025
(前年比)	24.7	17.6	7.2	25.5	482.7



景気ウォッチャー調査（4月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

・寒の戻りなど天候が不安定で、特に日曜日は3回も雨に当たったこと、及び学校など団体客の受け入れが後倒しになったことが原因となり、3月に引き続き来場者が前年を下回っている(遊園地)。

<先行き>

・受注価格の下落はあるものの、物件数は増加している。不動産、観光が好調となっている(広告代理店)。

